6〔高等学校　保健体育〕

受験区分	受験番号	氏　　名

〔注意事項〕

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この試験は、コンピュータを利用して採点するため、解答用紙にていねいに鉛筆で記入してください。

3　解答用紙には解答記入欄以外に次の記入があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

(1)受験区分・受験番号欄

受験区分・受験番号（数字）を受験票のとおりに記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。

(2)氏名欄、校種等・教科（科目）欄

氏名・フリガナ及び校種等・教科（科目）を記入してください。なお、校種等・教科（科目）については、受験票のとおりに記入してください。

4　試験時間は60分です。

5　解答は、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。例えば、[1]と表示のある解答番号に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号[1]の解答記入欄の③にマークしてください。

(例)

解答番号	解答記入欄 1 － 20
[1]	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6　解答用紙の解答記入欄は、全部で、[100]まで記入できるようになっていますが、〔高等学校　保健体育〕試験の解答番号は１～40ですので、解答記入欄の[41]～[100]は絶対に記入しないでください。

7　どの問題も、解答番号一つにつき解答記入欄にマークできる答えは必ず一つです。二つ以上の番号にマークしたものは採点されません。

8　解答番号のマークを間違えたときは、消しゴムで完全に消してからマークしてください。

9　計算を要する問題は、問題用紙の余白を利用してください。解答用紙で計算しないでください。

10　問題の内容についての質問はできません。

〔１〕「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」に示されている内容について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、改訂の経緯について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［1］。

> **１　改訂の経緯**
>
> （中略）
>
> このような時代にあって，学校教育には，子供たちが様々な変化に［ア］に向き合い，他者と［イ］して課題を解決していくことや，様々な情報を見極め，知識の概念的な理解を実現し，情報を再構成するなどして［ウ］につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を［エ］することができるようにすることが求められている。
>
> このことは，本来我が国の学校教育が大切にしてきたことであるものの，教師の世代交代が進むと同時に，学校内における教師の世代間のバランスが変化し，教育に関わる様々な経験や知見をどのように［オ］していくかが課題となり，子供たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で，これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきている。

（第１部　保健体育編　第１章　総説　第１節　改訂の経緯及び基本方針　１　改訂の経緯）

［1］の解答群

①	ア	積極的	イ	協働	ウ	新たな価値	エ	再構築	オ	継承
②	ア	積極的	イ	協力	ウ	成長	エ	達成	オ	共有
③	ア	積極的	イ	協力	ウ	成長	エ	再構築	オ	継承
④	ア	主体的	イ	協働	ウ	新たな価値	エ	達成	オ	共有
⑤	ア	主体的	イ	協働	ウ	成長	エ	再構築	オ	共有
⑥	ア	主体的	イ	協力	ウ	新たな価値	エ	達成	オ	継承

kyosai-gunma.jp

問2　次の記述は、保健体育科改訂の趣旨について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［2］。

> **1　保健体育科改訂の趣旨**
>
> (中略)
>
> **③　改善の具体的事項**
>
> (中略)
>
> なお，改善に当たっては，次の点にも留意した。
>
> ○　体力の向上については，心身ともに成長の著しい時期であることを踏まえ，「体つくり運動」の学習を通して，体を動かす楽しさや［ア］を味わわせるとともに，健康や［イ］の状況に応じて体力を高める必要性を認識させ，「体つくり運動」以外の運動に関する領域においても，学習した［ウ］としてより一層の体力の向上を図ることができるようにする。
>
> さらに，学習した［エ］を実生活や実社会に生かすこと及び運動やスポーツの［オ］を促す観点から，体育理論や保健との関連，教科外活動や学校生活全体を見通した教育課程の工夫を図るようにする。

（第１部　保健体育編　第１章　総説　第２節　保健体育科改訂の趣旨及び要点
1　保健体育科改訂の趣旨）

［2］の解答群

①	ア	心地よさ	イ	身体	ウ	効果	エ	成果	オ	定着化
②	ア	心地よさ	イ	体力	ウ	効果	エ	内容	オ	習慣化
③	ア	心地よさ	イ	体力	ウ	結果	エ	成果	オ	習慣化
④	ア	効果	イ	身体	ウ	結果	エ	内容	オ	定着化
⑤	ア	効果	イ	体力	ウ	結果	エ	内容	オ	定着化
⑥	ア	効果	イ	身体	ウ	効果	エ	成果	オ	習慣化

kyosai-guild.jp

問３　次の記述は、教科の目標について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［３］。

> **１　教科の目標**
>
> 教科の目標は，高等学校教育における保健体育科の果たすべき［ア］を総括的に示すとともに，小学校，中学校及び高等学校の教科の［イ］を踏まえ，高等学校としての重点や基本的な指導の方向を示したものである。
>
> 今回改訂した保健体育科の目標は，育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，引き続き，体育と保健を関連させていく考え方を強調したものである。
>
> (中略)
>
> この目標は，学校教育法において，
>
> ①「高等学校は，中学校における教育の［ウ］の上に，心身の発達及び進路に応じて，高度な普通教育及び［エ］を施すことを目的とする」(第50条) とされ，高等学校においては，義務教育で身に付けた基礎・基本を発展させ，［オ］や技術の習得に結び付けていくことが重視されていること。

(第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第１節　教科の目標及び内容　１　教科の目標)

［３］の解答群

①	ア	目的	イ	一貫性	ウ	目標	エ	一般教育	オ　知識・理解
②	ア	目的	イ	一貫性	ウ	基礎	エ	一般教育	オ　学問研究
③	ア	目的	イ	継続性	ウ	基礎	エ	専門教育	オ　知識・理解
④	ア	役割	イ	継続性	ウ	目標	エ	専門教育	オ　学問研究
⑤	ア	役割	イ	一貫性	ウ	基礎	エ	専門教育	オ　学問研究
⑥	ア	役割	イ	継続性	ウ	目標	エ	一般教育	オ　知識・理解

kyosai-guild.jp

問４　次の記述は、体育の性格について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［４］。

> **１　性　格**
>
> （中略）
>
> とりわけ近年では，［ア］ともいわれる，進化した人工知能が様々な判断を行ったり，身近な物の働きが［イ］で最適化されたりする時代の到来が，社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされている。そのような中で，特に［ウ］社会の到来や，生活が便利になること等によって［エ］が予想される21世紀の社会において，生涯にわたり，運動やスポーツを「する」ことのみならず，「みる，支える，知る」などの運動やスポーツとの多様な関わり方を社会で実践するなど，「豊かなスポーツライフ」を送ることは大きな意義がある。こうした変化の激しい社会に対応するため，全ての国民が児童生徒期に体験する学校体育の果たす役割は，ますます重要となっていると言える。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」１　性格）

［４］の解答群

① ア　ＩＴ革命　イ　インターネット経由　ウ　超高齢　エ　生活習慣病の増加

② ア　ＩＴ革命　イ　ＰＣの活用　ウ　超高齢　エ　生活習慣病の増加

③ ア　ＩＴ革命　イ　ＰＣの活用　ウ　少子高齢化　エ　体を動かす機会の減少

④ ア　第４次産業革命　イ　インターネット経由　ウ　少子高齢化　エ　生活習慣病の増加

⑤ ア　第４次産業革命　イ　インターネット経由　ウ　超高齢　エ　体を動かす機会の減少

⑥ ア　第４次産業革命　イ　ＰＣの活用　ウ　少子高齢化　エ　体を動かす機会の減少

kyosai-guild.jp

問5　次の記述は、内容の取扱いについて示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［5］。

> **4　内容の取扱い**
>
> **〈各領域の取扱い〉**
>
> （1）　内容の「A体つくり運動」から「H体育理論」までの領域については，次のとおり取り扱うものとする。
>
> ア　「A体つくり運動」及び「H体育理論」については，各年次において全ての生徒に［ア］させること。
>
> イ　入学年次においては，「B器械運動」，「C陸上競技」，「D水泳」及び「Gダンス」についてはこれらの中から［イ］以上を，「E球技」及び「F武道」についてはこれらの中から［ウ］以上をそれぞれ選択して［ア］できるようにすること。その次の年次以降においては，「B器械運動」から「Gダンス」までの中から［エ］以上を選択して［ア］できるようにすること。

（第1部　保健体育編　第2章　保健体育科の目標及び内容　第2節　各科目の目標及び内容　「体育」4　内容の取扱い）

［5］の解答群

①　ア　修得　イ　一つ　ウ　二つ　エ　一つ
②　ア　修得　イ　二つ　ウ　一つ　エ　二つ
③　ア　修得　イ　二つ　ウ　二つ　エ　二つ
④　ア　履修　イ　一つ　ウ　一つ　エ　二つ
⑤　ア　履修　イ　二つ　ウ　一つ　エ　一つ
⑥　ア　履修　イ　一つ　ウ　二つ　エ　一つ

kyosai-guild.jp

問６　次の記述は、保健の目標について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［６］。

> ２　目　標
>
> （中略）
> （１）　個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，［ア］を身に付けるようにする。
> （２）　健康についての［イ］や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて［ウ］を養う。
> （３）　生涯を通じて［イ］の健康の保持増進やそれを支える［エ］を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「保健」２　目標）

［６］の解答群

① ア　技能　イ　自他　ウ　他者に伝える力　エ　環境づくり
② ア　能力　イ　自己　ウ　他者に伝える力　エ　仕組みづくり
③ ア　能力　イ　自他　ウ　適応できる力　エ　環境づくり
④ ア　能力　イ　自他　ウ　適応できる力　エ　仕組みづくり
⑤ ア　技能　イ　自己　ウ　適応できる力　エ　環境づくり
⑥ ア　技能　イ　自己　ウ　他者に伝える力　エ　仕組みづくり

kyosai-guild.jp

問7　次の記述は、言語活動について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［7］。

> **1　言語活動**
>
> 2　内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。
>
> （1）　言語能力を育成する言語活動を重視し，筋道を立てて［ア］について話し合ったり［イ］を使って動きの修正を図ったりする活動や，個人及び社会生活における健康の保持増進や［ウ］について話し合う活動などを通して，コミュニケーション能力や［エ］の育成を促し，主体的な学習活動の充実を図ること。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第２節　内容の取扱いに当たっての配慮事項　1　言語活動）

［7］の解答群

①	ア　学習計画	イ　写真や動画	ウ　体力の向上	エ　情報活用能力
②	ア　学習計画	イ　身振りや身体	ウ　回復	エ　論理的な思考力
③	ア　学習計画	イ　写真や動画	ウ　回復	エ　情報活用能力
④	ア　練習や作戦	イ　身振りや身体	ウ　回復	エ　論理的な思考力
⑤	ア　練習や作戦	イ　写真や動画	ウ　体力の向上	エ　論理的な思考力
⑥	ア　練習や作戦	イ　身振りや身体	ウ　体力の向上	エ　情報活用能力

kyosai-guild.jp

問8　次の記述は、運動の多様な楽しみ方について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［8］。

> **3　運動の多様な楽しみ方**
>
> （中略）
>
> 体力や技能の程度及び［ア］等にかかわらず，仲間とともに学ぶ体験は，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから，原則として［イ］で学習を行うことが求められる。その際，心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ，運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり，健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど，指導方法の工夫を図ることが大切である。
>
> また，［ウ］等にかかわらず，仲間とともに学ぶ体験は，生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現とともに，スポーツを通した［エ］につながる重要な学習の機会であることから，本解説第3章第1節3に示した［オ］生徒などへの指導の内容等を参考に，指導の充実を図ることが大切である。

（第1部　保健体育編　第3章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第2節　内容の取扱いに当たっての配慮事項　3　運動の多様な楽しみ方）

［8］の解答群

① ア　障害の有無　イ　各年次　ウ　性別の違い　エ　共生社会の実現　オ　主体的に学ぶ

② ア　障害の有無　イ　男女共習　ウ　性別の違い　エ　楽しむ方法　オ　障害のある

③ ア　障害の有無　イ　各年次　ウ　性別の違い　エ　楽しむ方法　オ　主体的に学ぶ

④ ア　性別の違い　イ　男女共習　ウ　障害の有無　エ　楽しむ方法　オ　主体的に学ぶ

⑤ ア　性別の違い　イ　各年次　ウ　障害の有無　エ　共生社会の実現　オ　障害のある

⑥ ア　性別の違い　イ　男女共習　ウ　障害の有無　エ　共生社会の実現　オ　障害のある

kyosai-guild.jp

問９　次の記述は、「体育」と「保健」の関連について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［９］。

> **５　「体育」と「保健」の関連**
>
> （中略）
>
> これは，年間計画の作成や指導内容の充実に当たって，科目体育と科目保健の連携を図った［ア］の重要性を示したものである。
>
> 保健体育科の目標においては，「体育や保健の［イ］を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」として，（１）知識及び技能，（２）思考力，判断力，表現力等，（３）学びに向かう力，人間性等の目標を示しており，生涯にわたって心身の健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成を［ウ］観点から，健康な生活と運動やスポーツとの関わりを深く理解したり，［エ］が密接につながっていることを実感したりできるようにすることが求められる。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第２節　内容の取扱いに当たっての配慮事項　５　「体育」と「保健」の関連）

［９］の解答群

①	ア　学習成果	イ　視点や見地	ウ　試みる	エ　心と体
②	ア　学習成果	イ　見方・考え方	ウ　重視する	エ　体育と保健
③	ア　学習成果	イ　視点や見地	ウ　重視する	エ　体育と保健
④	ア　指導	イ　見方・考え方	ウ　重視する	エ　心と体
⑤	ア　指導	イ　視点や見地	ウ　試みる	エ　体育と保健
⑥	ア　指導	イ　見方・考え方	ウ　試みる	エ　心と体

kyosai-guild.jp

問10　次の記述は、教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［10］。

> **2　教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連（第１章総則第６款１ウ）**
>
> （中略）
>
> このため，本項では生徒の自主的，自発的な参加により行われる部活動について，
>
> ①　スポーツや文化及び科学等に親しませ，学習意欲の向上や責任感，［ア］の涵養（かん），互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものであるとの意義があること，
>
> ②　部活動は，教育課程において学習したことなども踏まえ，［イ］や興味・関心等をより深く追求していく機会であることから，第２章以下に示す各教科等の目標及び内容との関係にも配慮しつつ，生徒自身が教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促すなど，学校教育の一環として，教育課程との関連が図られるよう留意すること，
>
> ③　一定規模の［ウ］で運営を支える体制を構築していくことが長期的には不可欠であることから，設置者等と連携しながら，学校や地域の実態に応じ，教員の勤務負担軽減の観点も考慮しつつ，［エ］のスポーツや文化及び科学等にわたる指導者や地域の人々の協力，体育館や公民館などの社会教育施設や地域のスポーツクラブといった社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うこと，
>
> をそれぞれ規定している。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い　第３節　総則関連事項
2　教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連（第１章総則第６款１ウ））

［10］の解答群

①	ア　連帯感	イ　他者の適正	ウ　地域単位	エ　地域ボランティア等
②	ア　連帯感	イ　自らの適性	ウ　地域単位	エ　部活動指導員等
③	ア　連帯感	イ　他者の適正	ウ　人員	エ　部活動指導員等
④	ア　持続力	イ　自らの適性	ウ　人員	エ　地域ボランティア等
⑤	ア　持続力	イ　他者の適正	ウ　人員	エ　地域ボランティア等
⑥	ア　持続力	イ　自らの適性	ウ　地域単位	エ　部活動指導員等

kyosaiguild.jp

〔２〕　体つくり運動について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、体つくり運動の入学年次について示されているものの一部である。空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［11］。

A　体つくり運動

［入学年次］

（中略）

（２）思考力，判断力，表現力等

（中略）

なお，入学年次では，「運動に関する思考力，判断力，表現力等」，「体力，健康・安全に関する思考力，判断力，表現力等」，「運動実践につながる態度に関する思考力，判断力，表現力等」及び「［ア］の実践に関する思考力，判断力，表現力等」の中から，［イ］の特性に応じた思考力，判断力，表現力等の例を重点化して示している。

指導に際しては，入学年次においては，［ウ］を基に，よりよい解決方法を比較したり，活動を振り返ったりするなどによって，［エ］する活動の提示の仕方を工夫することが大切である。

〈例示〉

・［オ］や体力の程度を踏まえ，自己や仲間の課題に応じた強度，時間，回数，頻度を設定すること。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」３　内容　A　体つくり運動）

［11］の解答群

① ア　生涯スポーツ　イ　体　ウ　自己分析　エ　学習成果を分析　オ　生活様式

② ア　生涯スポーツ　イ　領域　ウ　習得した知識　エ　学習成果を分析　オ　ねらい

③ ア　生涯スポーツ　イ　領域　ウ　習得した知識　エ　評価　オ　生活様式

④ ア　合理的な運動　イ　領域　ウ　自己分析　エ　評価　オ　ねらい

⑤ ア　合理的な運動　イ　体　ウ　自己分析　エ　学習成果を分析　オ　生活様式

⑥ ア　合理的な運動　イ　体　ウ　習得した知識　エ　評価　オ　ねらい

kyosai-guild.jp

問2　次の記述と、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、「体育　内容　A 体つくり運動」の入学年次の次の年次以降について示されているものの一部を比較したときに、下線部（ア）～（オ）について、その内容の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。
解答番号は 12 。

A　体つくり運動

（中略）

[入学年次の次の年次以降]

（中略）

（3）　学びに向かう力，人間性等

（中略）

指導に際しては，生徒自身が（ア）協力，責任，参画，共生の意義や価値を認識し取り組もうとする意欲を高めることが求められることから，意義や価値の理解とその具体的な取り組み方を結びつけて指導することが大切である。

〈例示〉

・体つくり運動の学習に（イ）自主的に取り組もうとすること。
・仲間に課題を伝え合うなど，互いに助け合い（ウ）教え合おうとすること。
・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること。
・課題解決に向けて話し合う場面で，（エ）合意形成に貢献しようとすること。
・危険の予測をしながら（オ）回避行動をとるなど，健康・安全を確保すること。

12 の解答群

①	（ア）－正	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－誤	（オ）－誤
②	（ア）－正	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－正	（オ）－誤
③	（ア）－正	（イ）－誤	（ウ）－誤	（エ）－正	（オ）－正
④	（ア）－誤	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－正	（オ）－正
⑤	（ア）－誤	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－誤	（オ）－正
⑥	（ア）－誤	（イ）－正	（ウ）－正	（エ）－誤	（オ）－誤

kyosai-guild.jp

〔３〕　器械運動について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、器械運動について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［13］。

B　器械運動

［入学年次］

（中略）

（３）　学びに向かう力，人間性等

器械運動について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

（３）　器械運動に自主的に取り組むとともに，よい演技を讃えようとすること，互いに助け合い教え合おうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることなどや，健康・安全を確保すること。

（中略）

互いに助け合い教え合おうとするとは，技や演技の練習を行う際に，互いに仲間の動きを観察して動きの様子や課題を伝え合ったり，不足している［ア］を補助し合ったりしながら取り組もうとすることを示している。そのため，互いに助け合い教え合うことは，安全を確保したり，課題の解決に役立つなど［イ］な学習を行いやすくしたりすることを理解し，取り組めるようにする。

一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするとは，体力や技能の程度，性別や［ウ］等に応じて，自己の状況に合った［エ］課題の設定や挑戦を大切にしようとすることを示している。そのため，様々な違いを超えてスポーツを楽しむことができる配慮をすることで，スポーツのよりよい環境づくりに貢献すること，違いに応じた配慮の仕方があることなどを理解し，取り組めるようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」３　内容　B　器械運動）

［13］の解答群

①	ア	技術や能力	イ	自主的	ウ	障害の有無	エ	実現可能な
②	ア	技術や能力	イ	協働的	ウ	障害の有無	エ	目標に応じた
③	ア	技術や能力	イ	協働的	ウ	個々の力量	エ	目標に応じた
④	ア	勢いや力	イ	協働的	ウ	個々の力量	エ	実現可能な
⑤	ア	勢いや力	イ	自主的	ウ	個々の力量	エ	目標に応じた
⑥	ア	勢いや力	イ	自主的	ウ	障害の有無	エ	実現可能な

kyoei-guild.jp

〔４〕　陸上競技について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、陸上競技について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［14］。

C　陸上競技

[入学年次]

（中略）

（１）　知識及び技能

（中略）

○ 技能

（中略）

イ　長距離走

距離走では，自己に適したペースを維持して，［ア］距離を走り通し，タイムを短縮したり，競走したりできるようにする。

自己に適したペースを維持して走るとは，［イ］を達成するペース配分を自己の体力や技能の程度に合わせて設定し，そのペースに応じたスピードを維持して走ることである。

指導に際しては，走る距離は，［ウ］m 程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度や気候等の状況に応じて弾力的に扱うようにする。

〈例示〉

・リズミカルに腕を振り，［エ］フォームで軽快に走ること。

・呼吸を楽にしたり，走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ること。

・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ること。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」３　内容　C　陸上競技）

［14］の解答群

①	ア	長い	イ	ベストタイム	ウ	1,000～3,000	エ　力みのない
②	ア	長い	イ	目標タイム	ウ	1,500～3,000	エ　安定した
③	ア	長い	イ	ベストタイム	ウ	1,500～3,000	エ　安定した
④	ア	一定の	イ	目標タイム	ウ	1,500～3,000	エ　力みのない
⑤	ア	一定の	イ	ベストタイム	ウ	1,000～3,000	エ　安定した
⑥	ア	一定の	イ	目標タイム	ウ	1,000～3,000	エ　力みのない

kyosai-guild.jp

問2　次の表は、競技者A、B、C、Dの走高跳の競技結果の記録である。この競技者4人の順位について、最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。

解答番号は 15 。

○…成功　　×…無効試技（失敗）　　—…パス

記録 / 競技者	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66
A	—	×○	○	×○	—	××○	×××
B	○	○	○	×—	×○	××○	×××
C	○	○	×—	○	××○	××○	×××
D	○	○	—	××○	××○	×○	×××

15 の解答群

① 競技者A　1位　競技者B　1位　競技者C　4位　競技者D　3位
② 競技者A　1位　競技者B　3位　競技者C　3位　競技者D　2位
③ 競技者A　2位　競技者B　3位　競技者C　4位　競技者D　1位
④ 競技者A　2位　競技者B　2位　競技者C　4位　競技者D　1位
⑤ 競技者A　3位　競技者B　2位　競技者C　3位　競技者D　1位
⑥ 競技者A　3位　競技者B　1位　競技者C　4位　競技者D　2位

kyosai-guild.jp

〔５〕 水泳について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、水泳について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［16］。

D　水泳

（中略）

［入学年次の次の年次以降］

（中略）

（１）　知識及び技能

（中略）

○　技能

［泳法］

ア　クロール

（中略）

伸びのある動作とは，水平な［ア］の姿勢を保つことで水の抵抗を小さくし，プルやキックの推進力を生かして，１回のストロークで大きく前進する動作のことを示している。

安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりするとは，プル，キック，呼吸動作のタイミングを合わせた無理のない一定のスピードで，続けて長く泳ぐこと，力強いプルとキックの［イ］スピードに乗って泳ぐことを示している。

指導に際しては，４泳法の中で最も速く泳ぐことができるクロールの特性や魅力を深く味わえるよう，肩の［ウ］により抵抗を減らしてストロークや呼吸を行う動作や，水の抵抗をとらえて左右交互にプルとキックを行い，常に推進力を得る動作に着目させ，学習に取り組ませることが大切である。そのため，クロールの距離は，［エ］程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」３　内容　D　水泳）

［16］の解答群

①	ア　流線型	イ　リズムを保ち	ウ　ローリング	エ　25～100m
②	ア　流線型	イ　テンポを上げて	ウ　ローリング	エ　50～200m
③	ア　流線型	イ　テンポを上げて	ウ　平衡性	エ　50～200m
④	ア　伏し浮き	イ　リズムを保ち	ウ　平衡性	エ　25～100m
⑤	ア　伏し浮き	イ　テンポを上げて	ウ　平衡性	エ　25～100m
⑥	ア　伏し浮き	イ　リズムを保ち	ウ　ローリング	エ　50～200m

kyosaiguild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

〔7〕 武道について、次の各問いに答えなさい。

問1 次の記述と、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編」の中で、「体育　内容　F 武道」について示されているものの一部を比較したときに、下線部（ア）～（エ）について、その内容の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 26 。

> **F　武道**
> **[入学年次]**
> （中略）
> **（1）　知識及び技能**
> （中略）
> **○　知識**
> **伝統的な考え方**では，我が国固有の（ア）競技である武道を学習することは，自国の文化に誇りをもつ上で有効であり，これからの（イ）情報化社会で生きていく上で有意義であることを理解できるようにする。
> **技の名称や見取り稽古の仕方**では，武道の各種目で用いられる技の名称があることを理解できるようにする。また，見取り稽古とは，武道特有の練習方法であり，他人の稽古を見て，相手との間合の取り方や相手の隙をついて勢いよく技をしかける機会，技のかけ方や武道特有の「（ウ）気合」などを学ぶことも有効な方法であることを理解できるようにする。
> **体力の高め方**では，武道のパフォーマンスは，体力要素の中でも，柔道では主として瞬発力，筋持久力，巧緻性など，剣道では主として瞬発力，敏捷（しょう）性，巧緻性などに強く影響される。そのため，（エ）攻防に必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を取り入れ，繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。

26 の解答群

①	（ア）－正	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－誤
②	（ア）－正	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－正
③	（ア）－正	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－正
④	（ア）－誤	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－誤
⑤	（ア）－誤	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－誤
⑥	（ア）－誤	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－正

kyosaiguild.jp

問2　次の記述と、「新しい学習指導要領に基づく剣道指導に向けて（学校体育実技指導資料第１集「剣道指導の手引」参考資料）（平成22年３月　文部科学省）」の中で、高等学校の学習内容の考え方について示されているものの一部を比較したときに、下線部（ア）～（エ）について、その内容の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 27 。

第４節　高等学校

１　学習内容の考え方

（中略）

知識，思考・判断は，自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫しているかどうかといった思考・判断に関する内容が重視される。また，基本動作を確実に習得しながら自己の（ア）能力に応じた技を選び，得意技を身に付けることができるよう計画的に練習や試合の仕方を工夫することができるようにすることが大切である。

さらには，これらの内容の基盤として知識に関するものも重視する。それには，剣道の（イ）特徴的な考え方，技の名称や（ウ）用具の取り扱い，体力の高め方，課題解決の方法，試合の仕方などを理解し，知識を身に付けているかどうかといった内容が大切である。

なお，高等学校では，中学校における学習経験等により，生徒の（エ）学習の仕方や技能の程度などに差があるため，指導に当たっては十分に留意する必要がある。

27 の解答群

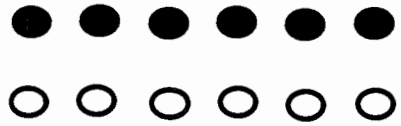
①	（ア）－正	（イ）－正	（ウ）－正	（エ）－誤
②	（ア）－正	（イ）－誤	（ウ）－誤	（エ）－正
③	（ア）－正	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－正
④	（ア）－誤	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－誤
⑤	（ア）－誤	（イ）－正	（ウ）－誤	（エ）－誤
⑥	（ア）－誤	（イ）－誤	（ウ）－正	（エ）－正

kyosai-gumi.jp

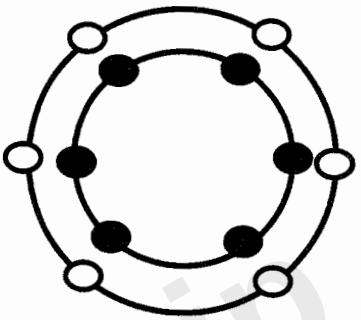
〔8〕 ダンスについて、次の問いに答えなさい。

次の図は、外国のフォークダンスにおけるフォーメーション（隊形）の図である。空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［28］。

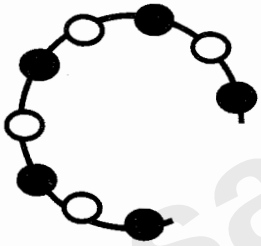
［ア］・フォーメーション



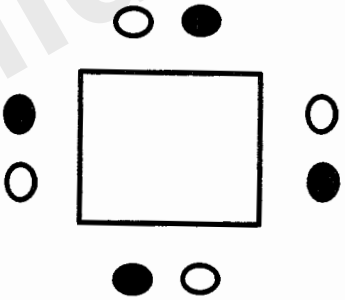
［イ］・フォーメーション



［ウ］・フォーメーション



［エ］・フォーメーション



○・● はパート別

［28］の解答群

① ア ロングウェーズ　イ ダブル・サークル　ウ オープン・サークル　エ スクエア

② ア ロングウェーズ　イ ペア・サークル　ウ ランドルト・サークル　エ エスコート

③ ア ロングウェーズ　イ ダブル・サークル　ウ ランドルト・サークル　エ スクエア

④ ア ペアライン　イ ペア・サークル　ウ オープン・サークル　エ スクエア

⑤ ア ペアライン　イ ペア・サークル　ウ オープン・サークル　エ エスコート

⑥ ア ペアライン　イ ダブル・サークル　ウ ランドルト・サークル　エ エスコート

kyosai-guild.jp

〔９〕 体育理論について、次の各問いに答えなさい。

問１ 次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編（平成30年７月）」の中で、体育理論について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［29］。

１ スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展

ア 知識

（中略）

中学校では，運動やスポーツの必要性と楽しさ，現代社会におけるスポーツの文化的意義，国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な役割，人々を結び付けるスポーツの文化的な働きなどについて学習している。

ここでは，その学習を踏まえ，スポーツの発展は，人々に文化的，社会的，経済的な［ア］をもたらしていること，一方，スポーツへの社会の関心や期待が高まることで課題も生じることについて理解することが求められる。その理解を基盤として，現代のスポーツを［イ］な大切な文化として捉え，育てていくためには，現在及び将来において，一人一人のよりよい関わり方が重要であることについて，スポーツから得られる［ア］とスポーツについての課題の双方から自己の関わり方を考え深めていく必要がある。

このため，本内容では，スポーツの［ウ］や我が国から世界に発展したスポーツがあること，スポーツが国際親善や世界平和，共生社会の実現に貢献していること，スポーツの文化的価値を失わせる行為として［エ］があること，現代社会ではスポーツは経済的な波及効果があり，その高まりとともに市民としての責任ある行動が求められていること，［イ］なスポーツの推進には，環境や社会にもたらす影響を考慮することなどを中心として構成している。

（第１部 保健体育編 第２章 保健体育科の目標及び内容 第２節 各科目の目標及び内容 「体育」
３ 内容 H 体育理論 １ スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展）

［29］の解答群

①	ア 恩恵	イ 持続可能	ウ 歴史	エ ドーピング
②	ア 恩恵	イ 世界的	ウ 変容	エ 贈収賄
③	ア 恩恵	イ 持続可能	ウ 変容	エ ドーピング
④	ア 付加価値	イ 世界的	ウ 歴史	エ ドーピング
⑤	ア 付加価値	イ 持続可能	ウ 変容	エ 贈収賄
⑥	ア 付加価値	イ 世界的	ウ 歴史	エ 贈収賄

kyosai-gunjin

問2　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、体育理論について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［30］。

２　運動やスポーツの効果的な学習の仕方

ア　知識

（２）　運動やスポーツの効果的な学習の仕方について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解すること。

（ア）　運動やスポーツの技能と体力は，［ア］に関連していること。また，期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。さらに，過度な負荷や長期的な酷使は，けがや疾病の原因となる可能性があること。

（イ）　運動やスポーツの技術は，学習を通して技能として発揮されるようになること。また，技術の種類に応じた学習の仕方があること。現代のスポーツの技術や戦術，ルールは，［イ］やメディアの発達に伴い変わり続けていること。

（ウ）　運動やスポーツの技能の［ウ］にはいくつかの段階があり，その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法，課題の設定方法などがあること。また，これらの獲得には，一定の期間がかかること。

（エ）　運動やスポーツを行う際は，［エ］の変化など様々な危険を予見し，回避することが求められること。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」
３　内容　H　体育理論　２　運動やスポーツの効果的な学習の仕方）

［30］の解答群

①	ア　相互	イ　用具の改良	ウ　上達過程	エ　気象条件
②	ア　相互	イ　科学技術	ウ　習熟	エ　気象条件
③	ア　相互	イ　用具の改良	ウ　習熟	エ　体調等
④	ア　運動経験	イ　科学技術	ウ　上達過程	エ　体調等
⑤	ア　運動経験	イ　用具の改良	ウ　上達過程	エ　気象条件
⑥	ア　運動経験	イ　科学技術	ウ　習熟	エ　体調等

kyosai-guild.jp

〔10〕　保健に関する内容について、次の各問いに答えなさい。

問1　次の記述の中で、「健康日本21（第二次）最終評価報告書（令和４年10月）」において、中間評価における「改善している項目」として記載されているものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［31］。

ア　健康寿命の延伸（日常生活に制限のない期間の平均の延伸）
イ　脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少（人口10万人当たり）
ウ　血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少
　（HbA1cがＪＤＳ値8.0％（ＮＧＳＰ値8.4％）以上の者の割合の減少）
エ　メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少
オ　低栄養傾向（ＢＭＩ20以下）の高齢者の割合の増加の抑制
カ　適正体重の子どもの増加

［31］の解答群

①　ア・イ・ウ・エ
②　ア・イ・ウ・オ
③　ア・イ・エ・オ
④　イ・ウ・エ・オ
⑤　イ・エ・オ・カ
⑥　ウ・エ・オ・カ

kyosai-guild.jp

問2　次の記述は、「令和５年度版　厚生労働白書」の中の、「第２部　現下の政策課題への対応　第１章　子どもを産み育てやすい環境づくり」において、少子社会の現状について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［32］。

第１節　少子社会の現状

我が国の合計特殊出生率は、2005（平成17）年に1.26となり、その後、緩やかな上昇傾向にあったが、ここ数年微減傾向となっている。2022（令和４）年は［ア］（概数）と依然として低い水準にあり、長期的な少子化の傾向が継続している。

また、2017（平成29）年に発表された国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５年推計）」によると、現在の傾向が続けば、2070年には、我が国の人口は［イ］万人となり、１年間に生まれる子どもの数は現在の半分程度の約50万人となり、高齢化率は約［ウ］％に達するという厳しい見通しが示されている。

さらに、ライフスタイルが従来とは異なるものになってきている。例えば、2040年には50歳時の未婚割合が男性で約［エ］％、女性では約19％になるものと見込まれている。また、共働き世帯と専業主婦世帯（男性雇用者と無業の妻からなる世帯）とを比べると、［オ］年以降は前者の数が後者の数を上回っている。

こうした状況に加え、多くの国民が結婚したい、子どもを産み育てたい、結婚した後も子どもを育てながら働きたいと希望しているにもかかわらず、その希望がかなえられず、結果として少子化が進んでしまっているものと考えられる。国民が希望する結婚や出産を実現できる環境を整備することが重要である。

［32］の解答群

①	ア	1.26	イ	8,700	ウ	39	エ	29	オ	1997（平成９）
②	ア	1.26	イ	9,800	ウ	39	エ	23	オ	1989（平成元）
③	ア	1.26	イ	8,700	ウ	31	エ	23	オ	1997（平成９）
④	ア	1.16	イ	9,800	ウ	31	エ	29	オ	1989（平成元）
⑤	ア	1.16	イ	9,800	ウ	39	エ	29	オ	1989（平成元）
⑥	ア	1.16	イ	8,700	ウ	31	エ	23	オ	1997（平成９）

kyoso-gunjun

問3　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、安全な社会生活について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［33］。

（２）　安全な社会生活

（中略）

ア　知識及び技能

（中略）

（イ）応急手当

㋐　応急手当の意義

適切な応急手当は，傷害や疾病の［ア］を防いだり，傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。また，自他の生命や身体を守り，不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには，一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに，自ら進んで行う［イ］が必要であること，さらに，社会の［ウ］の整備を進めること，［ウ］を適切に利用することが必要であることを理解できるようにする。

㋑　日常的な応急手当

日常生活で起こる傷害や，熱中症などの疾病の際には，それに応じた［エ］の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを，［オ］を通して理解し，応急手当ができるようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「保健」３　内容　（２）　安全な社会生活）

［33］の解答群

①	ア	悪化	イ	態度	ウ	施設設備	エ	気道	オ	映像等
②	ア	悪化	イ	態度	ウ	救急体制	エ	体位	オ	実習
③	ア	悪化	イ	積極性	ウ	施設設備	エ	体位	オ	映像等
④	ア	進行	イ	積極性	ウ	救急体制	エ	気道	オ	実習
⑤	ア	進行	イ	態度	ウ	救急体制	エ	気道	オ	映像等
⑥	ア	進行	イ	積極性	ウ	施設設備	エ	体位	オ	実習

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

⑹ イ → ア → ウ → オ → エ

問５　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、生涯を通じる健康について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［35］。

> **（３）生涯を通じる健康**
>
> （中略）
>
> **ア　知識**
>
> （中略）
>
> **（イ）　労働と健康**
>
> （中略）
>
> **㋑　働く人の健康の保持増進**
>
> 働く人の健康の保持増進は，職場の健康管理や安全管理とともに，心身両面にわたる総合的，積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。その際，ストレスに対する［ア］への援助，リラクセーションの指導など，メンタルヘルスケアが重要視されていることにも触れるようにする。
>
> そのためには，働く人の日常生活においては，積極的に余暇を活用するなどして［イ］の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解できるようにする。
>
> また，（イ）の内容について法律等を取り扱う際には，［ウ］よりも，こうした法律等が制定された［エ］を中心に理解できるようにするとともに，ストレスチェック制度などの予防対策の重要性に触れるようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「保健」３　内容　（３）生涯を通じる健康）

［35］の解答群

①	ア	耐性づくり	イ	活動意欲	ウ	個々の名称	エ　背景や趣旨
②	ア	耐性づくり	イ	生活の質	ウ	法律等の内容	エ　省庁や年度
③	ア	耐性づくり	イ	活動意欲	ウ	法律等の内容	エ　省庁や年度
④	ア	気付き	イ	生活の質	ウ	個々の名称	エ　背景や趣旨
⑤	ア	気付き	イ	活動意欲	ウ	個々の名称	エ　省庁や年度
⑥	ア	気付き	イ	生活の質	ウ	法律等の内容	エ　背景や趣旨

kyosai-guild.jp

問6　次の記述と、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」の中で、「保健体育　各科目　保健　内容の取扱い」について示されているものの一部を比較したときに、下線部ａ～ｅについて、その内容の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［36］。

３　内容の取扱い

（中略）

（７）　内容の（３）のアの（ア）※注については，ａ 思春期と健康，ｂ 結婚生活と健康及びｃ 老化と健康を取り扱うものとする。また，生殖に関する機能については，必要に応じ関連付けて扱う程度とする。ｄ 責任感を涵養することやｅ 人権を尊重する態度が必要であること，及び性に関する情報等への適切な対処についても扱うよう配慮するものとする。

※注

内容

（中略）

（３）　生涯を通じる健康について，自他や社会の課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　生涯を通じる健康について理解を深めること。

（ア）　生涯の各段階における健康

生涯を通じる健康の保持増進や回復には，生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。

［36］の解答群

①	ａ－正	ｂ－正	ｃ－誤	ｄ－正	ｅ－誤
②	ａ－正	ｂ－正	ｃ－正	ｄ－誤	ｅ－誤
③	ａ－正	ｂ－誤	ｃ－正	ｄ－正	ｅ－誤
④	ａ－誤	ｂ－誤	ｃ－正	ｄ－誤	ｅ－正
⑤	ａ－誤	ｂ－正	ｃ－誤	ｄ－正	ｅ－正
⑥	ａ－誤	ｂ－誤	ｃ－誤	ｄ－誤	ｅ－正

kyosai-guild.jp

問7　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、健康を支える環境づくりについて示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［37］。

> **（4）　健康を支える環境づくり**
>
> （中略）
>
> **ア　知識**
>
> （中略）
>
> **（エ）　様々な保健活動や社会的対策**
>
> 我が国や世界では，健康を支えるために，健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。その際，［ア］や，［イ］・非政府組織（NGO）の諸活動，世界保健機関などの国際機関等の活動について，［ウ］の考え方に基づくものも含めて触れるようにする。また，このような活動や対策を充実させるためには，一人一人がそれらを理解し支えることが重要であることに触れるようにする。
>
> **（オ）　健康に関する環境づくりと社会参加**
>
> （中略）
>
> また，一人一人が健康に関心をもち，健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり，そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることについて理解できるようにする。その際，それらを実現するには，健康に関する適切な情報を［エ］して，正しく分析・評価し，［オ］することが有効であることについて触れるようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「保健」
３　内容（４）　健康を支える環境づくり）

［37］の解答群

① ア　厚生労働省などの公的な機関　イ　政府開発援助（ODA）
　ウ　ヘルスプロモーション　エ　選択・収集　オ　活用・探究

② ア　厚生労働省などの公的な機関　イ　特定非営利活動法人（NPO）
　ウ　豊かなスポーツライフ　エ　習得・選択　オ　活用・発信

③ ア　厚生労働省などの公的な機関　イ　政府開発援助（ODA）
　ウ　豊かなスポーツライフ　エ　選択・収集　オ　活用・探究

④ ア　日本赤十字社などの民間の機関　イ　特定非営利活動法人（NPO）
　ウ　ヘルスプロモーション　エ　習得・選択　オ　活用・探究

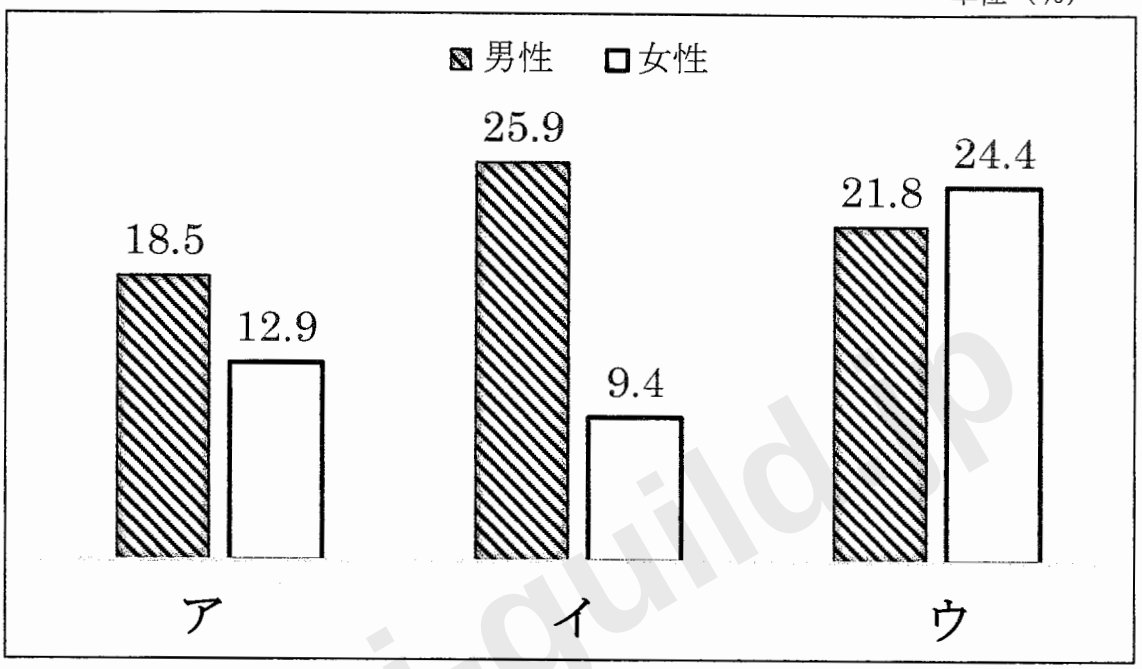
⑤ ア　日本赤十字社などの民間の機関　イ　政府開発援助（ODA）
　ウ　豊かなスポーツライフ　エ　習得・選択　オ　活用・発信

⑥ ア　日本赤十字社などの民間の機関　イ　特定非営利活動法人（NPO）
　ウ　ヘルスプロモーション　エ　選択・収集　オ　活用・発信

kyoshi-guild.jp

問8　次のア～ウのグラフは、「令和５年版　厚生労働白書　資料編」の、「Ⅰ　制度の概要及び基礎統計　②保健医療（３）健康づくり・疾病対策」の中で、健康づくり対策について示されている「運動習慣の状況［運動習慣のある者の割合（20歳以上、性・年齢階級別）］」のグラフの一部である。ア～ウに当てはまる年齢階級の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥から選びなさい。解答番号は 38 。

単位（%）



資料：厚生労働省健康局「令和元年国民健康・栄養調査」

（注）運動習慣のある者：１回30分以上の運動を週２日以上実施し、１年以上継続している者

38 の解答群

①	ア　30～39歳	イ　40～49歳	ウ　50～59歳
②	ア　30～39歳	イ　50～59歳	ウ　40～49歳
③	ア　40～49歳	イ　50～59歳	ウ　30～39歳
④	ア　40～49歳	イ　30～39歳	ウ　50～59歳
⑤	ア　50～59歳	イ　30～39歳	ウ　40～49歳
⑥	ア　50～59歳	イ　40～49歳	ウ　30～39歳

kyosai-guild.jp

問９　次の記述は、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き（令和３年５月　環境省・文部科学省）」の中で、熱中症発生時の対応について示されているものの一部である。

空欄［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［39］。

６．熱中症発生時の対応

熱中症が疑われる時には、［ア］すれば死に至る緊急事態であることをまず認識しなければなりません。重症の場合には救急車を呼び、現場ですぐに体を［イ］する必要があります。熱中症の［ウ］は具体的な治療の必要性の観点から、Ⅰ度（現場の応急処置で対応できる）、Ⅱ度（病院への搬送が必要）、Ⅲ度（入院し集中治療が必要）と分類されます。Ⅱ度以上の症状があった場合には、直ちに病院へ搬送します。

一方、「立ちくらみ」や「筋肉のこむら返り」などの軽度の症状の場合には、涼しい場所へ移動し、衣服を［エ］、安静にさせます。また、少しずつ［オ］を行います。この際、症状が改善するかどうかは、病院搬送を判断するためのポイントとなりますので、必ず、誰かが付き添うようにします。

［39］の解答群

①	ア	放置	イ	仰向けに	ウ	進行度	エ	濡らし	オ	マッサージ
②	ア	放置	イ	冷却	ウ	重症度	エ	緩め	オ	水分の補給
③	ア	放置	イ	仰向けに	ウ	進行度	エ	緩め	オ	マッサージ
④	ア	悪化	イ	仰向けに	ウ	重症度	エ	緩め	オ	水分の補給
⑤	ア	悪化	イ	冷却	ウ	重症度	エ	濡らし	オ	マッサージ
⑥	ア	悪化	イ	冷却	ウ	進行度	エ	濡らし	オ	水分の補給

kyosai-guild.jp

〔11〕 オリンピックについて、次の問いに答えなさい。

次の表は、オリンピックの開催年と開催地をあらわした表の一部である。
表の中の［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［40］。

夏季大会	
年	開催地
1896	［ア］
［イ］	パリ（フランス）
1964	［ウ］
2024	パリ※1（フランス）

冬季大会	
年	開催地
1952	［エ］
［オ］	長野（日本）
2022	北京（中国）
2026	ミラノ・コルティナ※2（イタリア）

※1・※2 については予定である

［40］の解答群

① ア ローマ（イタリア） イ 1924 ウ 東京（日本）
エ オスロ（ノルウェー） オ 1972

② ア ローマ（イタリア） イ 1940 ウ ミュンヘン（ドイツ）
エ オスロ（ノルウェー） オ 1998

③ ア ローマ（イタリア） イ 1940 ウ ミュンヘン（ドイツ）
エ シャモニー（フランス） オ 1972

④ ア アテネ（ギリシャ） イ 1924 ウ 東京（日本）
エ オスロ（ノルウェー） オ 1998

⑤ ア アテネ（ギリシャ） イ 1940 ウ 東京（日本）
エ シャモニー（フランス） オ 1972

⑥ ア アテネ（ギリシャ） イ 1924 ウ ミュンヘン（ドイツ）
エ シャモニー（フランス） オ 1998

kyosai-guild.jp

令和６年度実施教員採用候補者選考試験
教科専門試験[高等学校　保健体育]　　正答及び配点

解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	①	③	⑤	⑤	④	①	④	⑥	④	②
配点	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
解答番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	②	③	⑥	⑥	④	②	③	⑤	⑤	①
配点	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
解答番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	⑤	④	④	⑤	⑥	⑥	②	①	③	①
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
解答番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	②	①	②	②	④	①	⑥	④	②	④
配点	3	3	2	3	3	3	2	3	2	2
解答番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答										
配点										

kyosai-guide.jp